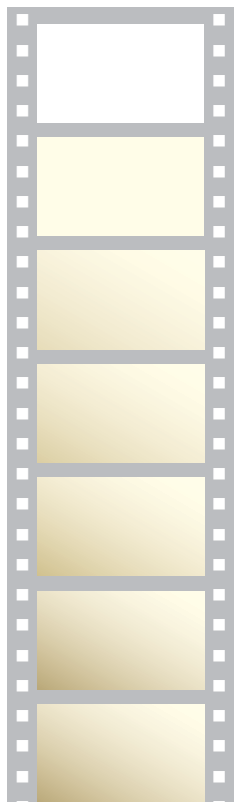
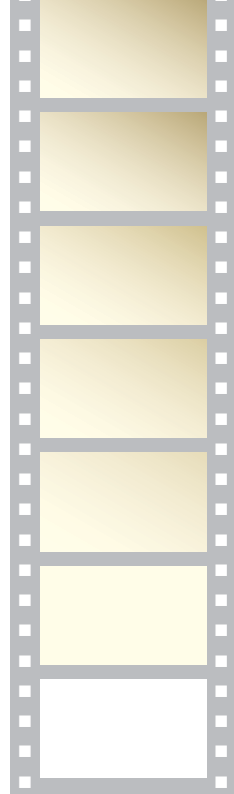


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第六十五回 「アナウンサーへの道」⑤

人間として初めて月面着陸をした「アポロ11号」の阿姆斯特朗船長の言葉は、いろいろな訳がありますが、ぼくは「この第一歩は一人の人間にとって小さな一歩だが、人類にとって大きな第一歩である」この訳文が好きです。

宇宙を旅した人、それぞれが後世に残したコメントがあります。

ソ連（現在のロシア）の宇宙飛行士ガガーリン少佐は「地球は青かった」（61年4月12日）と述べ、世界で初めての女性宇宙飛行士テレシコワさん（ソ連）は「私はカモメ」（63年6月16日）と言いました。

テレビの宇宙中継を観たあと、試験会場へ向かいましたが、面接の日が、月面着陸の日と重なり、「このニュースのことも聞かれるかも知れない」と思い、いろいろメモをしておきました。

会場には、男子10名が集まり、音声テストが行われました。声を出して読むこと

は、毎日発声練習をしているので、落ち着いて読むことが出来ました。ここで注意しなければいけないのは、誤読です。

恥ずかしながら、ぼくは某局のテストで「ベイコフネンド米穀年度」を「コヌガタ米穀」と読んで落ちた経験があります。

音声テストが終わって男性四人が残りました。そこへSテレビ人事部の男性社員がやって来て、

人事部「これから一人ずつの面接を行います。結果は、合格した人、そうでない人にも一週間以内にお知らせしますので、お待ち下さい。」

と、はつきり面接に残った四人の前で言ったのです。ぼくは手を上げて確認しました。

伸「合格者へはもちろんのこと、不合格者にも連絡を下さるのですね。」

人事部「はい、四人全員に連絡致します。」

それでは、面接を始めます。〇〇君どうぞ。」

いよいよ面接がスタートしました。

伸 (続)

平成
25年
5月